

## タブレットの導入により、来所することが困難であった利用者、職員との情報共有が効率的に行えるようになった

一般社団法人こうらくえん

児童発達支援・放課後等デイサービス ありんこルーム

### ①課題

- ・支援を希望する利用者が新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者となっ  
てしまい、来所できない、または出席自粛するケースが度々生じ  
ていた。
- ・休みの間の状況確認（家庭での生活の様子、本人・家族の想  
いなど）が困難となり、療育施設としての責務が十分に実施できな  
くになっていた。

タブレット  
の導入

### ①成果

- 【業務の質の向上】
- ・タブレットを使用したオンライン療育体制を構築し、これまで  
実施できていなかった「来所できない利用者・家族への支  
援」を行えるようになった。
- 【量的な効率化】
- ・これまで電話聴取にて情報収集を行っていたため、それを他  
職員へ伝達する時間が必要であったが、スタッフで同じ場で情  
報共有ができるようになった。

### ②課題

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からこれまで法人内全職員が  
一同に会して行ってきた会議や外部講師研修会が実施できない状  
況が続いていた。
- ・必要な情報共有が十分に行えておらず業務に支障を来したり、  
療育場面において必要なスキルアップを行う機会が少なくなった。

タブレット  
の導入

### ②成果

- 【業務の質の向上】
- ・外部講師研修会が行える環境となったことに加え、オンライ  
ン研修を受講しやすくなり、より良い支援計画の立案や療育内  
容の充実が図れ、多くの場面に活かすことができるようになった。
- 【量的な効率化】
- ・各施設に導入したタブレットでのオンライン会議が可能とな  
り、これまでの会議場までの移動時間の削減が図れた。



## 業務効率化のステップ

- ①オンラインでの療育という職員・利用者にとっても馴染みのない試みのため、具体的にどういったことを行うのか（方法・内容・記録など）を明確化し、情報共有した。
- ②オンライン療育についてのマニュアルを作成し職員に周知、案内を利用者の家庭に配布した。（今回はコロナ感染濃厚接触該当者の家庭のみ）
- ③対面で行ってきた支援（遊びの提供など）が行えず、支援内容の制限が大きい為、会話がメインとなり、利用児もすぐに飽きて画面上から離れていってしまい、家族からの情報収集が主になりがちとなった。画面上でも子どもが興味を引くような支援が出来るように検討していく。

## 職員の声など

### 【良かった点】

- ・休みが続いてどうしているか気になっていた利用児の様子が分かって安心した。
- ・マニュアルが出来ていたため、不安なく臨むことができた。

### 【悪かった点】

- ・画面上の離れた子どもが楽しめる内容を考えるのがとても難しい。
- ・メインのスタッフだけに頼りがちになってしまっていた。（役割分担が難しかった）

### 【今後の課題・その他】

- ・まだオンライン療育の利用希望者は少ないため、今後も継続的に内容・システムなども充実させながら、あらゆる事態に対応していけるようにしていきたい。

## 業務効率化のステップ

- ①オンライン会議導入にあたって、議題案・議事録のデータを各施設で共有化できるようにした。また、オンライン研修の内容選定、受講する職員の日程管理を実施した。
- ②定例会議、外部研修会の完全オンライン化を行った。
- ③職員がオンライン会議に不慣れであり、意思の疎通がスムーズに行えなかった。補足なども必要となり、会議が長引いてしまうケースも時折みられた。議事録の自動作成ツールの導入など情報伝達の充足に繋がるように今後も工夫をしていく。

## 職員の声など

### 【良かった点】

- ・移動しなくても会議に参加できるので、時間を効率的に使えるようになった。
- ・今必要な研修を受けられる機会が増えたため、支援でも活かすことが出来た。

### 【悪かった点】

- ・声が聞き取りずらく、誰が話をしているのか分かりにくかった。
- ・会議内容のまとめが難しかったため、議事録が作りにくかった。